

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 12月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202494
法人名	特定非営利活動法人 シンセア
事業所名	グループホーム たみの里一清水
所在地 (電話番号)	〒424-0055 静岡市清水区吉川129-4 054-347-6541
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年11月2日

【情報提供票より】(平成19年10月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 7人, 非常勤 11人, 常勤換算 16人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄筋 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	26,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 600 円
	夕食	600 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年10月18日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1		要介護2	4 名
要介護3	9 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 83 歳	最低 68 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立清水病院、福地外科・循環器医院、松浦整形外科、渡辺外科医院、社団山水会杉山歯科医院、宮澤皮膚科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

整然と刈り込まれた茶畑を正面に眺め、フェンスや仕切りのない庭と一体化した広々と明るい環境に立地するホームである。職員は「生き生き 生きる」の理念の下、規制をしないゆったりのんびりした暮らしの支援に努めている。職員がついですし屋さんがホームに来てご馳走してくれたり、お話し相手のボランティアや踊りの会の皆さんの訪問によりいつもと違う楽しみを味わえるのもこのホームの特徴である。近隣との協力関係も良く、日々の職員の介護に対する評価も高い。加えて家族からも職員が明るく訪問しやすいとの感謝の言葉が多く見られた。今後地域に対する貢献の思いをささやかなことからでも実現してゆくことを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>① 今回が第一回目の外部評価受審である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者と計画作成担当者が日常の様子からの気づきや職員の意見の聞き出しからまとめた物である。評価結果については職員で話し合い改善に繋げ利用者の生活に反映するよう取り組む姿勢である。</p>
重点項目	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2回開催された。地域の自治会長や民生委員、大家さん、地域包括センター職員に加えて家族参加も多数あり、災害時の協力要請やホームについて理解していただくための説明等が話し合われた。地域の協力に答えるためにホームとして地域に貢献したいとの思いは今後の推進会議で具体化し実現することを期待している。</p>
重点項目	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>系列ホーム合同の「たみの里だより」が発行され、個々の近況を添えて家族の元に届けられている。預かり金の明細書も毎月送付し、健康に関する連絡は電話でその都度報告し、家族が訪問の際にも機会を捉えて話しており、要望や苦情があった場合には職員に周知し速やかに対応している。</p>
重点項目	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して、地域の清掃活動やお祭りに参加している。ホーム行事に近隣の方に案内を出して一緒に楽しんでいただいた。ホームの庭が広いことから、近隣の方の臨時駐車場として融通したり、生産の野菜をいただいたり良い関係が築かれている。また、近所の児童のグループが社会学習の一環として父兄同伴で訪問しリコーダ演奏をしてくれるなど思いがけない楽しみをいただいている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で自分らしく生活できるよう「生き生き生きる」を系列ホーム共通の理念として掲げている。	○	グループホームの基本指針が地域密着型サービスと示されたことから、地域の中でその人らしく暮らせるよう支えてゆく為にホームとして拠り所となる、指針に沿った理念の創出について話し合われることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者が何に生きがいを感じているか、また、ゆったり、のんびり過ごしていただく為にどのようにしたら良いのか、定例会議や日々の介護の中で話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、地域の清掃活動やお祭りに参加したりホーム行事の際に近隣の方に協力・お願いと共に案内を出して一緒に楽しんでいただいた。ホームの庭が広いことから、近隣の方の臨時駐車場として融通したり、生産の野菜をいただいたりと良い関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価受審は今回が初めてである。管理者は評価により気づきを得ることに前向きであり、評価結果は職員で話し合い改善に繋げ利用者の生活に反映できるよう取り組む姿勢である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には自治会長、民生委員、大家さん、地域包括センター職員及び利用者家族6～7名が出席して意見交換を行った。話し合ったことが地域委員から関係者に連絡され早い対応をしていただき地域の協力を改めて感謝している。	○	管理者の交代もありスタートが遅れたが、順調に推移している。更に定期的、継続的な開催をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉課とは利用者の生活についての相談をしている。地域包括支援センターからは運営推進会議以外にも様子を見に来ていただくこともあり、サービス向上に共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほぼ3ヵ月ごとに利用者の近況を掲載した系列ホーム合同の「たみの里だより」が発行され、家族の元に届けられている。預かり金の明細書も毎月送付し、健康に関する連絡は電話でその都度報告し、家族が訪問の際にも機会を捉えて話しあっている。	○	ホーム全体のお知らせと共に利用者個々の様子についての報告があると家族は楽しみと安心を抱くことが出来る。職員は当たり前と思うようなことでも報告して家族とホームで利用者の状況が共有されるよう望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「利用者からの苦情を処理するために講ずる措置の概要」により、相談や苦情に対する連絡先や手順が細かく指示されている。要望や苦情があった場合には職員に周知し速やかに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えるよう努力しており、個々のケースにより職員と話し合い、利用者へのダメージを少なくするよう配慮している。	○	職員の交代は利用者のみならず家族にとっても不安なことである。止むを得ず交代する場合には、引継等遺漏無いよう日頃からのシステム作りが求められる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のユニット会議で研修受講者からの報告があり、学んだことを共有している。外部研修受講の機会もあるが全職員が受講できるまでには至っていない。	○	職員の力はホームの財産と考えて、職員が学ぶ機会を作り出す為の運営面での工夫が望まれる。計画的な内部・外部研修受講により、職員のスキルアップを図るよう取組まれたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修として他施設と交流している。	○	積極的な交流により、ネットワーク作りや勉強会の開催をしてサービスの質の向上を図るよう望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の受入れが可能である。利用者や職員と食事をしたり、レクを共にしながらホームの雰囲気や職員と徐々に馴染んでいただくよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家族や利用者が「介護していただいている」との気持ちを抱くことから脱却し、同じ立場で家族として暮らしていくよう努めている。落ち込んでいる利用者に職員が「家族だからねー」と慰める場面もある。梅干やシンの実、ラッキョウなど漬物作りは利用者に教えていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常の関わりの中で本人の意向や希望を把握するよう努め、思いを尊重し利用者の立場に立って考えるケアを心がけている。また、今までの生活を大切にしたい生活に近づけるよう取り組んでいる。希望があれば飲酒や喫煙も職員の見守りの中で実現している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者の「ケアはチームワークでするもの」という思いを受け、毎日の申し送りやユニットごとの定例会で家族の意見や職員の気づきを話し合い、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活での問題点や状況変化は把握しているが、見直し期間が長い。	○	きめ細かな対応を特徴とするグループホームにおいては実情に即した柔軟なケアにつながるよう3ヶ月に1度以上の介護計画の見直しが求められる。また、面会や電話等で家族と連絡を取っているが、家族の意思を確認するため介護計画に同意のサインを頂くことを検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かし、家族の宿泊や食事への同席・提供、職員による通院介助など、利用者や家族の希望には柔軟に対応している。週に2回地元の敬老会に参加する利用者もいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所協力医の受診は本人や家族の同意を得て対応している。協力医の他、利用前の馴染みのかかりつけ医や医療機関への職員による通院介助も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族、医師等と話し合い、重度化した利用者には全職員で対応しているが、ホームとしての指針等がまだ整えられていない。	○	本人や家族、医師等ケア関係者が状況変化に応じて話し合いを重ね、重度化に対応する方針の統一を図る取り組みを期待する。また、利用者の急変時の対応や職員のメンタルケアに対する対応についても研修を実施することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを損なわない言葉かけや対応、記録の保管や守秘義務に関して職員への徹底を図っている。居室は施錠が出来、利用者の意思に任されている。職員が入室する時は声をかけて本人の了解を得てから入室する気遣いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ゆっくりのんびり自分らしく過ごす」「気兼ねない生活」を目指し、職員の都合を優先することなく、出来るだけ規制のない介護に取り組んでいる。職員の見守りの下喫煙や飲酒を楽しむ利用者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好物や嗜好を踏まえ揚げたての天ぷら等メニューを工夫し旬の食材や利用者が畑で作った野菜を使った食事づくりをしている。職員との会話を楽しみながら食事をしたり、生き生きと手伝う利用者の姿が見られた。時には回転寿司などの外での食事も楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は隔日としているが希望があれば毎日でも入浴できる。職員は利用者の希望や体調に配慮しながら入浴介助を行い、清潔を保つよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の持てる力を活かして、花や畑の水やりや食事の片付け、洗濯物たたみ等を自分の役目として行っている。利用者の経験や特技を活かし、貼り絵やコーラージュ教室等それぞれの力量に合わせた活動をしている。来客にお茶のサービスをする利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物や散歩の他、季節の花見やドライブ、外食等利用者の希望や健康状態、天候に配慮しながら外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより鍵を掛けない生活を実践している。外出傾向のある利用者には職員が寄り添い、利用者の意思を尊重し気の済むまで一緒についていく等、安全面に配慮しながら自由な暮らしが出来るよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在まで訓練等は実施されていない。	○	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方など利用者と共に定期的に確認をする取り組みが必要とされる。地域の協力に関して運営推進会議で呼びかけると共に、非常用食料・備品の準備もお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量を記録に残し、一人ひとりの総摂取量を把握している。利用者の健康状態や病状に配慮し、医師と相談の上摂取量や水分量を決めケアをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは明るく落ち着いた造りになっており、トイレや浴室等安全に自立した生活が送れるよう配慮されている。開放感のある食堂では、利用者同士で会話を楽しんだり楽しみごとをする姿が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、使い慣れた馴染みの家具や日用品が持ち込まれ、居心地よく生活できるよう配慮されている。利用者は家族の写真や趣味の物を飾り、その人らしい居室づくりをしている。		